

留大橋の架橋により通勤時間が3分の2に短縮



榎橋(国道6号)の渋滞状況



留大橋(日立東海線)

- 日立市と東海村の間を流れる久慈川を渡る主な橋は、国道6号の榎橋と245号の久慈大橋だけで、朝の通勤時には、慢性的な渋滞が発生していました。
- 留大橋(日立東海線)を新たに整備したことで、国道6号及び245号の交通量が約6,200台転換し、日立市南部と東海村間の所要時間が、31分から18分へと13分短縮しました。
- また、久慈川を渡り、相互に行き交う新たな交通も発生したことで、地域間交流の促進と、地域経済の活性化も図られています。

日立東海線(留大橋)

- ・延長: L = 2,700m
(うち、橋梁 L = 655m)
- ・事業期間: 平成10~14年度
- ・総事業費: 約83億円
(うち、橋梁約60億円)



明治26年の初代留橋架橋以来、何度も流失、架橋が繰り返された。写真は昭和16年の洪水で壊れた留橋。